

会 議 録

会議名	第3回 みよし市町誌編さん委員会			記載者	久野 宗秀
期 日	平成 25 年 2 月 25 日 (月)			場 所	市役所 202 会議室
	午後 2 時 00 分～ 3 時 30 分				
出席者	編さん委員	小野田英久	石川 芳秋	事務局	部 長 赤川 鈴治
		林 董一	近藤 隆治		次 長 塚本 直樹
		深谷 みほ	小野田賢治		専門監 近藤 政彦
		水野 裕之			主 幹 久野 宗秀
					専門員 久保 正明
	欠 席	黒田 安雄	木戸 友二		伊藤 大輔
内 容					

1 あいさつ

【会長】今日は寒い中、枉げてご出席いただきありがとうございます。暦の上では春になったわけですが、外はまだまだ寒いです。お互い健康にご留意いただきましてご活躍いただきたいと思います。いよいよ町誌編さんも終盤戦でございますが、これからが大切な時期だと思います。皆さんにいろいろご指導いただきながら目標といたしております9月28日の完成式が滞りなく執行できますよう皆様のご協力ご支援を改めてお願い申し上げる次第でございます。市の広報誌ホットラインの偶数月の15日号に町誌の各部門の代表の方に原稿をいただいて掲載させていただいております。監修者からできるだけ市民の方に町誌を知っていただくという意味でぜひ掲載をとというご助言をいただきましてスタートしたわけでございますが、最初は全般について、次からは各部門の代表の方に年代別でお願いして今回で9回になり、各部門すべて終わって10回目に最後まとめがあるという段取りになりまして、今日2月15日号の地名の鏡味先生の部分がコピーして配布しております。もうひとつは、直接関係はありませんが、生涯学習課が悠学カレッジという講座を多方面にわたってやっておるんですが、その中で歴史ものを取り上げている講座がありまして春、秋に徳川家康のルーツを探るといような講座があつて大変好評でした。80名ぐらいの応募があり、市民の皆様が歴史ものに大変興味があるなと肌で感じたわけでございます。なお、秋から冬にかけて文化財保護委員長の石川先生と資料館の担当職員が講師になって『「歴史散歩」ふるさとの文化財を訪ねる』という講座を開催していただきましたが、これも定員オーバーで抽選漏れの人も出たと聞いております。そういう意味でみよしの市民の方も歴史に非常に興味を持っておられるのではないかと思いますと、この町誌の発刊、完成をいろいろな方が期待していただいているのではと自賛しているわけですが、皆様にもさらにご指導をいただきまして、立派な完成式をと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【事務局】ありがとうございます。これより議事のほうに入っていきたいと思います。議事の取り回しについては会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【会長】ただ今から会議に入りたいと思います。よろしくお願ひします。最初に（1）目次及び執筆原稿について事務局から説明をお願いします。

2 協議事項

（1）目次及び執筆原稿について

【事務局】（目次案及び執筆原稿について説明）

【会長】今説明をいただきましたが、ここまでで皆さんご意見やご質問がございましたらどうぞ。林先生、今までのところで先生が是非皆さんに言っておきたい事がございましたらお願いします。

【委員】言い出したらキリがありませんが、特に大きな問題点はありません。

【会長】私から恐縮です。窯業という項目を設けたわけですが、これは他の市史などで例はあるんですか。

【委員】ないです。本来であれば考古ですから原始・古代のほうに入るんですが、中世の窯業を中世に入れると文体が違うという問題になってここに窯業という項目を立てました。

【会長】窯業というのはいろいろな事情があつてここに来たんですが、並び順はここがいいということですか。

【委員】そうです。窯業の書き方というのは資料編の書き方です。本文編の書き方ではないということがはじめから委員の間から話が出ていましたが、担当の先生がこれでいいということですので…。書き直すと、時間が足りなくなってしまうということもあります。内容については高度に書かれています。

【会長】窯業はいただいている原稿が今説明があつた 207 頁ですか。

【事務局】こちらの原稿は小見出しがないところがありますので、修正していただいている途中で今日は間に合いませんでした。

【会長】他の方向かございますか。近世の第二章第二節の村を超えたつながら、第三章暮らしと信仰、第四章人と交流、第五章幕藩制社会の解体の原稿がここには載ってないということです。大変つらいとこなんですが、先生に頑張ってもらってなんとか間に合わせていただいて、完成に遅れては大変ですのでよろしくお願ひするということですか。それから、細かいことですが、記入漏れとか誤字とかこの原稿にはあるようですが、これから精査していただけるということですよ。写真や表が入ってないところもあります。

【事務局】追々撮影していったりこれから許可をいただかなければいけないところもあります。今順番に進めております。

【会長】年表と索引が今どういう段階でこれからどういう段取りで進めていくか、委員の皆さんに説明していただけますか。

【事務局】年表につきましては昨年の 12 月の編集委員会でそれぞれの部会からご提出いただきました。今後は各部会の部分で時代がダブるところの調整が必要になってくると思います。用言止め、体言止めとかいろいろありますので、この辺の統一をしまして、基本的には、である調で統一をしていただくということです。みよしの部分と一般事項（全国的な事柄）と二本立てで記述しております。特に一般的な事項につきましては、全国に関わってくることで、もう一度洗いなおしていただくということです。それぞれ部会から出していただいた年表ですので、部会で拾っていただいている数が違います。最終的に通して一本のもの

を作らないといけませんので、数を調整する必要が出てくるのかなということと、年表全体を見ていただいて統一をはかっていただく人がいるのではないかと考えていますが、難しいものですから現在部会で再度検討していただいて、年表を出してくださいますようお願いしております。中世部会のように項目だけあげて、目を通して添削してくれればいいというところもありますし、これはこれしかないという部会もあります。その辺で全体の統一をはかるのが難しいという状況です。索引につきましては、1000 頁を超える中から拾い出しをするわけですので、今それぞれの部会でいくつ拾ってくださいますようお願いしております。少ない頁のところは数が少ないですけど、頁が多いところはたくさん拾っていただくということになっておりまして、索引は掲載する頁数が 10 頁ほどですので、これで調整をする。索引を拾うにあたってはどういう基準で拾っていくのかということもありますし、時代から出るもの、民俗のように聞き取りしている部分、自然、地名のように時代ではない部分もあります。拾う基準はなかなか難しいと思います。今は部会で拾っていただいておりますけど、最終的にはゲラが完成した最終段階でもう一度すべて通しで拾わなくてははいけない。最後原稿が完成した時にもう一度すべて拾い出しをして、頁数の合わせをします。

【会長】9 月 28 日の完成式に間に合うには、逆算していつ頃までに完成していなければいけませんか。

【事務局】7 月末には発刊しないといけません。印刷に一か月半見ていくといいんですけど、そうすると 6 月の半ばには完了していただくんですけども、索引の拾い出し作業などもありますから実際は 6 月のはじめか 5 月の半ばぐらいには、校正を終えていただけないかなと。今の状況で行きますと、3 月末までにほぼ校正が終わるのは、民俗、現代、自然、原始・古代です。終わらないのは中世がまだ再校でありまして、かなり直しが入っておりますので 3 月末より若干伸びるかなと考えております。近世につきましては、原稿自体 40 頁ほどしかいただいておりますので、その部分を無しでいくのか、書かれるまで待つのかということがあります。昨年 10 月にいただいた粗原稿が 40 頁ほどありますので、これの精度を高めていただいて早く印刷屋のほうに回していただけないかなと考えております。窯業につきましては、写真が撮り終わっていませんので 3 月末までに終わるのは半分ぐらいはあるかと思いますが、4 月に校正がかかる部分が少しあります。近世につきましては執筆状況が未確定でして、先生の健康上の問題もありますからなかなか執筆が長時間できないという状況です。

【会長】今主幹から年表等も含めて執筆状況を説明していただいたわけなんですけど、近世第二章第二節村を超えたつながりから第五章幕藩制社会の解体までの原稿が未提出とのこと。今話があったように書けるところは書いていただくか、9 月 28 日の完成式を目指していくならば、この部分はよいテーマですが、最後にそのまま出すかということになります。林先生いかがでしょう。

【委員】本当に頭が痛いことです。ただ、この三好町誌だけではなくてどこでも長丁場でありますので、委員の中で病気になったりすることがありまして、まだうちの場合は被害が少ないほうです。近世というのは町誌の中の重要な部分の一つで、窯業よりも大事だと言っても過言ではありません。

【会長】そのような事情であるということをお委員の皆様もご承知していただきたい。今の状況でございます。

【委員】いざとなったらその部分は省くと言われるんですが、それはちょっと出来ない。

これは通史ですから途中である部分が抜けるとそれは町誌としては欠陥となります。やはりそこは書いていただかないと近世と近代の結びつきというのが出来ないんです。「もう時間がないから第〇章の第〇節を省く」と言われると、これはまた困るわけで、必ずそこは書いていただいて通じるようにしていただかないといけません。

【会長】章立てや見出しを見ても中々関心の高い項目があげてあります。

【委員】10年ぐらい続いておりますと、故障者が出てきます。まだここは犠牲者が少ないほうです。ですけど、やはり時間の問題がありますので…。

【会長】今のような問題を抱えておるわけですが、とりあえず事務局でご説明いただきました議題1のことにつきまして、採決したいと思います。

【委員】蛇足ですが、目次案をご覧くださいますと表題の字が統一されております。例えばこの間の編集委員会で議題になったのは「くらし」という言葉で、近世は漢字にしており、現代をご覧くださいますと、第四章人口の増加と人々の暮らしというように漢字になっております。実は編集委員会で現代はひらがなになっていたんです。目次は目立つもんですから強く言いまして、全部漢字で統一されております。ただ、現代部会のほうで執筆者がひらがなでなくては嫌だといって漢字にされないもんですから妥協点で章立てのところは漢字、本文はひらがなになってます。お読みになると、表題と本文が違うのではとおっしゃるかも知れませんが、そのぐらいのところはご辛抱いただきたいと思います。主幹には言ったばかりだとは思いますが、「加茂郡」と書いている人と「賀茂郡」と書いている人の二種類あります。中世の場合は、「賀茂郡」で書いて後になればなるほど「加茂郡」になりますが、両方ごちゃごちゃです。そういうものを編集委員会で統一しなければと思います。

【会長】他の委員の方いかがでしょうか。先ほど近世のところの問題を残しておるわけですが、事務局サイドでご尽力いただいて事務局に対応を一任していく中でこの議題1についての採決に入りたいと思います。承認いただける方は挙手をお願いします。

(全員挙手)

【会長】ありがとうございます。全員賛成いただきましたので次ぎに進みます。議題2口絵について事務局よりお願いします。

(2) 口絵について

【事務局】(口絵について説明)

【会長】口絵について説明がございましたが、何かご質問ございますか。私から恐縮ですが、20頁の奉安殿は中部小学校のものだという説明でしたが、中部小学校と書かなくてもいいですか。知っている人は分かるんですが、戦後の人は分からない。

【事務局】現中部小学校となります。当時はまだ中部小学校という名前ではなかったかも知れませんが、建物自体は問題ないと思います。

【会長】中部小学校か調べて入れておいて下さい。新庁舎はどちらでもいいですよ。事務局にお任せして。

【事務局】東館が後ろに残っている開庁当時のものでしたらこの写真になりますし、新庁舎をとということであれば、正面玄関からということになります。正面玄関ですと光の関係で中々きれいな写真が撮るのが難しいかと思えます。

【会長】今の16頁の写真が一番いいかも知れません。

【事務局】撮影はしてみますけど、きれいなものが撮れるかということ、かなり難しいです。

【委員】22 頁の三好町民病院の姿ですけど、いまいちイメージが…。正面玄関だと思うんですけど、どうかなと。

【会長】そう言われればそうです。自転車置き場か雨除けみたいなものがメインになっています。これも考えてください。他にありませんか。

【委員】小野田長安坐像ですが、小野田長安の説明としてこの写真が選ばれたと思うけど、本文では「小野田長安（阿願）」あるいは「阿願（小野田長安）」になってます。括弧して併記するかして統一したほうがいいと思います。

【会長】では、本文に合わせるということで。

【委員】今の奉安殿の件ですが、当初これを見たとき確か校名が出ていました。ただ校名が時期によって変わっちゃうわけなんです。それで消したと思います。

【事務局】これは絵葉書で下に学校名まで入っていたんですけど、時期的に校名と合わないということで写真だけにしました。

【会長】そういう背景があるということならいいです。長安の件につきましては、ご指摘もありましたように本文のほうと整合性をもたせてください。なかに町誌をよく見ていただく方がいると、そういう話が出てくるんです。

【委員】ひとつよろしいでしょうか。21 頁の千人針ですけど、もう少し大きく出来ないでしょうか。これでは鉢巻みたいなんです。今の若い人は分かりませんので糸で結んでいるところがはっきりと写るように。あまりにもこの頁は白が多すぎます。応召袋との間がかなり空いていますからもう少し千人針を大きく拡大できないか。せめて赤い糸の結び目まで入らないと千人針が分からないと思います。

【会長】千人針の真ん中を見ると、これは海軍の千人針ということですか。

【委員】そうです。事務局の各役職の方も千人針をご存じないと思います。

【会長】お話がありましたようにもう少し大きくしてください。

【委員】全体像と拡大したものとわかりやすい。

【会長】それでは病院のところと長安の坐像の件、千人針の件を事務局で修正していただくことをお願いします。説明や補足したことも含めてこれに賛成の方の挙手をお願いします。

（全員挙手）

【会長】ありがとうございます。皆さん賛成だと言うことですので次の議題に参りたいと思います。

（3）平成 24 年度の事業実施状況の報告について

【事務局】（事業実施状況について説明）

【会長】ありがとうございます。このことについてご質問ご意見を頂戴したいと思います。特にないようですので報告についての採決に入りたいと思います。平成 24 年度の事業実施状況の報告についてご承認いただける方は挙手をお願いします。

（全員挙手）

【会長】全員挙手でございますので、平成 24 年度の事業実施状況の報告については、承認されたものとします。続きまして平成 25 年度の三好町誌編さん事業計画について事務局より説明をお願いします。

(4) 平成 25 年度三好町誌編さん事業計画について

【事務局】(事業計画について説明)

【会長】ありがとうございました。それぞれの委員会と最後の記念事業についても触れていただきましたので、このことについて皆さんのご質問ご意見を伺いたいと思います。私から申し訳ありませんが、完成式典はサンアートとの関係で 9 月 28 日(土)ということですが、来ていただく方は感謝状を渡す方とどういう方が想定されるでしょう。

【事務局】執筆者と部会長、あわせて 30 人ほどが対象になります。みよし市の公職者の方、文化財保護委員、議員さん、区長さんなどにはお知らせします。

【会長】レセプションホールだと 120 人ぐらいですか。

【事務局】満員で 150 人ほどだと思います。

【会長】もう少し先の話ですので新年度になってから司会はどうするか、開会の辞、閉会の辞を誰にやっていただくなど、段々と詰めていっていただきたいと思います。この時に私がかねてからお願いしております、皆さんにお配りする当日のプログラム、感謝状贈呈者の一覧表とともに広報に掲載した各部会のものを冊子で利用させていただくということが広報課と内々話がついておりますので、原始・古代部会から地名までそれぞれ広報をそのまま借用させていただいて当日配る冊子に載せていただけたらと思っております。公職者の方に町誌はいつ配るんですか。

【事務局】完成した町誌は関係者にお配りしますので、案内した公職者全員にお配りはしません。

【会長】最初に申し上げたように悠学カレッジで非常に歴史に関心を持っている方には自由参加していただくのか、どういう形で参加していただくのか。そこら辺も詰めてください。

【事務局】広報でも PR しますし、一般の市民の方には自由にご参加いただきたいと思いません。あわせて関係者にも手紙でお知らせします。

【会長】完成式の講演をお願いする方は今一人現代部会からお願いしたいということだったんですが、もう一人は 8 部門のうちどなたかお願いできたらということでご苦労いただいておりますが、委員の皆様でぜひこの方にやってもらったらといいのではという方がいましたらご意見として伺いたいと思いますがどうでしょう。これから検討していただきたいと思えます。司会は職員の方でやっていただけるんですか。

【事務局】職員でどうかと考えております。

【小野田会長】それでは平成 25 年度三好町誌編さん事業計画についてご質問ご意見がなければ、採決に入りたいと思います。原案の通り賛成の方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

【会長】ありがとうございました。全員賛成ですので承認されました。以上を持ちまして予定されていた協議題がすべて終わりました。その他について事務局からご説明いただきたいと思えます。

3 その他

【事務局】先ほどご説明いたしました通り、町誌の編さん委員会を年 2 回開催いたします。予定としましては 6 月のゲラが完成した時期に開催したいと考えております。時期が来ましたらご連絡いたしますのでよろしく願いいたします。

【会長】最後に教育部長さん閉会のあいさつをお願いします。

【事務局】本日はお疲れ様でした。24年度最後の会議と言うことで編さん委員の皆様にお集まりいただきました。3月末を目処に完成を目指してきたんですけど、半年の猶予をいただいて刊行していくということになりました。皆様の力添え、編集にあたっている先生方には一生懸命やっただいていただいているわけですが、いいものをつくる、史実に基づいたものをつくるということでありました。確実なものをつくるということで、繰越明許という手法で24年度予算をそのまま半年間継続するということを議会のほうに提案をさせていただきました。議会のほうも町誌の刊行を大変楽しみにしておられます。本来なら完成して市長がお礼を申し上げますところですが、あと半年委員の皆様のご協力をいただきましていい三好町誌をつくって参りたいと思います。大変ありがとうございました。

【会長】以上で会議を終えたいとございます。ありがとうございました。

午後3時30分 終了